

## 廃棄物ゼロエミッション(廃棄物減量化対策)

FDKグループでは、限られた資源を有効的に利用し、廃棄物による地球環境への負荷を低減するために、廃棄物の発生をできるかぎり抑制し、発生した廃棄物は分別・リサイクルするなどの廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動に取り組んでいます。グループ会社のFDKエコテック(株)では、循環型社会形成の観点から、パソコンなどの情報機器を回収し、廃プラスチック、ガラス、金属などの分別、再資源化などの事業を行っています。(P29参照)

### 第三期環境行動計画の目標

廃棄物発生量を2006年度末までに2003年度比で3%削減する。

- ・国内の事業所を対象として、廃棄物の発生量を2006年度末までに2003年度比で3%削減する。
- ・なお、2004年度末までにゼロエミッションを達成する。(第二期環境行動計画の2005年度末までに1年前倒しで実施する。)

### 廃棄物削減活動

2004年度は、廃棄物発生の総量を削減すると共に、ゼロエミッションは、これまでの目標を一年前倒した2004年度末までに達成を目標にして活動を進めてきました。主な活動内容は、梱包材の通い箱への変更、廃棄していた原材料の工程内リサイクル、プラスチック容器類などの廃品を社内で転用したことなどです。

これらの活動の結果、2004年度の廃棄物発生量は1,816トンで昨年度比13%の削減となりました。

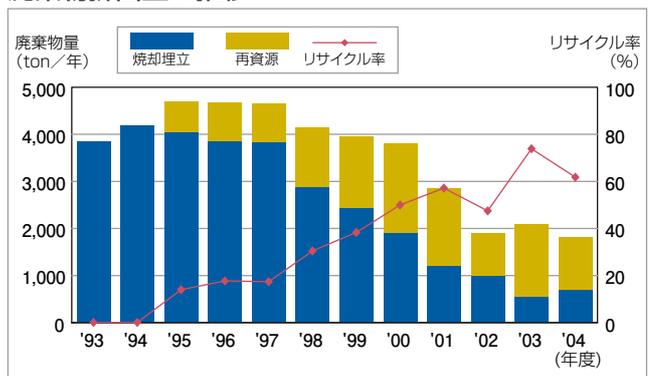
### ゼロエミッションの達成

2004年度は、全ての廃棄物を洗い出して対応手段を検討し、「ゼロエミッションガイドライン」を作成しました。このガイドラインに沿って、汚泥については路盤材やセメント原料への再利用を促進するとともに、バイオ処理技術により浄化槽汚泥の発生量をゼロにする活動に取り組んできました。

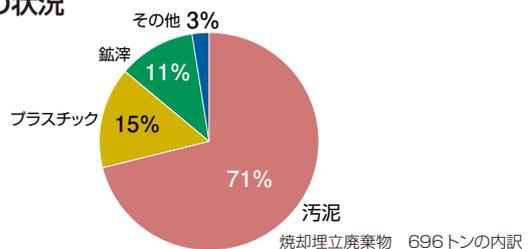
廃プラスチックについては、FDKエコテック(株)との連携により、分別方法を更に細かくすることでリサイクルの促進を図りました。紙類については、書類はシュレッダーすることで梱包材として再利用し、書類以外は紙の原料へのリサイクルを徹底して進めてきました。

これらの活動の結果2004年度末には、これまでリサイクルできなかった全ての廃棄物においてリサイクルする仕組みを確立することができ、目標としてきた国内グループ全ての生産拠点でのゼロエミッションを達成することができました。2005年度におきましては、年間でのゼロエミッション達成が可能となります。

### 廃棄物排出量の推移



### 種類別の状況



### ゼロエミッションの維持に向けて

今後は廃棄物の総量を更に低減する活動を継続していくと共に、ゼロエミッションについては、新しい種類の廃棄物の発生も想定されることから、事業所毎にゼロエミッション活動がきちんと管理されているかどうかをチェックして、認定するしくみを構築していきます。

#### FDKの廃棄物ゼロエミッション

定義：各事業所から排出される不要物を100%有効利用し、単純焼却や埋立処分などをゼロにすること

対象：汚泥、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、廃油、金属くず、ガラス・陶磁器くず、木くず、紙くず、繊維くず、動植物性残さ(食堂生ゴミ)、浄化槽汚泥